

【コネクター接続設定ガイド】 HULFT Square コネクター for kintone

株式会社セゾンテクノロジー
カスタマーサクセス本部
カスタマーサクセス部

HULFT Square コネクター for kintone

kintone コンポーネント一覧

コネクタ名	コンポーネント アイコン名	機能概要
HULFT Square コネク ター for kintone	レコード取得	kintoneのレコードを取得します。
	レコード追加	kintoneのレコードを追加します。
	レコード更新	kintoneのレコードを更新します。
	レコード削除	kintoneのレコードを削除します。
	テーブル読み取り	kintoneのテーブルに格納されているデータを読み取ります。
	テーブル書き込み	入力データをkintoneのテーブルに書き込みます。
	テーブルデータ削除	kintoneのテーブルに格納されているデータを削除します。
	API呼び出し	kintone API(REST API)を呼び出します。 kintone APIについてはサイボウズ社のデベロッパーサイト (https://developer.cybozu.io/hc/ja)をご参照ください。 ※「API呼び出し」は2014年4月10日時点のkintone APIをもとにしています。 kintone APIの改修・追加によっては、正しく実行ができない場合があります。

HULFT Square コネクター for kintoneは、2種類の接続方法を提供しています。
接続方法により、実行可能なコンポーネントが異なります。
本資料では、2種類の接続方法毎に設定手順を記載しています。

接続種類

1. kintone接続

レコード取得、レコード追加、レコード更新、レコード削除、
テーブル読み取り、テーブル書き込み、テーブルデータ削除で利用する接続です

2. kintone API接続

API呼び出しで利用する接続です

設定は2024年3月25日時点の手順です。
クラウドサービスのため、変更されている場合があります。
変更されている場合、HULFT Squareテクニカルサポートセンターまでご連絡ください。

1. kintone接続

レコード取得、レコード追加、レコード更新、レコード削除、
テーブル読み取り、テーブル書き込み、テーブルデータ削除の接続設定

【kintone接続】 kintoneへの接続

kintone接続では、kintone側でアプリを公開してHULFT Squareで接続設定を作成しアプリからレコードを取得する手順を記載しています。

作成するスクリプト（完成図）



【kintone接続】 kintoneへの接続概要

HULFT Square コネクター for kintoneで利用する接続設定を作成します。
kintone側で権限をつけたアプリを公開した後にHULFT Squareで設定をおこないます。

1. kintone側

- アプリの公開

2. HULFT Square側

- コネクションの作成
- スクリプトの作成

【kintone接続】kintone側の設定（アプリの公開）

HULFT Square コネクター for kintoneは、kintoneアプリ毎に接続設定を作成し連携します。
はじめにkintone側でアプリを公開してから、HULFT Squareに接続設定を作成します。

kintoneアプリの公開

公開するアプリの管理権限をもつユーザー（例えば管理者）でkintoneにログインします。
設定メニューから「アプリ管理」を選択し、公開するアプリの設定を開き、アクセス権「アプリ」を指定します。

アプリの一覧 CSV形式でダウンロードする

表示するアプリ 管理権限のあるアプリ（すべて）

ID	アプリ名	設定	所属スペース	アプリグループ
224	csm接続ガイド		(なし)	Public

HULFT Squareの接続設定でこのIDを指定します。
お手元にメモしてください。

csm接続ガイド

アプリ管理ガイド

アプリ管理権限メモはありません。（作成する）

フォーム 一覧 グラフ 設定

一般設定 カスタマイズ/サービス連携

アイコンと説明 プラグイン

デザインテーマ JavaScript CSSでカスタマイズ

プロセス管理 APIトーク Webhook

通知

アプリの条件通知 アクセス権

レコードの条件通知 アプリ

リマインダーの条件通知 レコード

フィールド

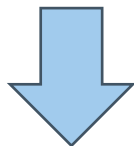
【kintone接続】 kintone側の設定（アプリの公開）

HULFT Squareからkintoneに接続するユーザに対して、権限が付与されていることを確認します。
例えば、「レコード取得」処理のみ実施するにはkintoneアプリの「レコード閲覧」を許可します。
許可する操作にチェックを入れた後「保存」を選択します。

ユーザー／組織／グループとアクセス権 ?

ユーザーを追加

ユーザー／組織／グループ	許可する操作	
アプリ作成者 [ユーザー名]	☒ レコード閲覧 ☒ レコード追加 ☒ レコード編集 ☒ レコード削除 ☒ アプリ管理 ☒ ファイル読み込み ☐ ファイル書き出し	×
[ユーザー名]	☒ レコード閲覧 ☐ レコード追加 ☐ レコード編集 ☐ レコード削除 ☐ アプリ管理 ☐ ファイル読み込み ☐ ファイル書き出し	×
Everyone	☒ レコード閲覧 ☒ レコード追加 ☒ レコード編集 ☒ レコード削除 ☐ アプリ管理 ☐ ファイル読み込み ☐ ファイル書き出し	



csm接続ガイド > アプリの設定

反映前の変更があります 変更した設定をアプリに反映するには、[アプリを更新]ボタンをクリックします（ヘルプ）。

最終更新者と日時： [ユーザー名] 6/3 16:38

権限を変更後、「アプリの更新」をおこない変更を反映します。

【kintone接続】 kintone側の設定（接続情報のまとめ）

kintone側の設定が完了しました。

次に、HULFT Squareから接続するために必要な情報を確認します。

サブドメイン名、アプリIDは、kintoneアプリのURLで確認できます。

■.cybozu.com/k/224/

サブドメイン名

アプリID

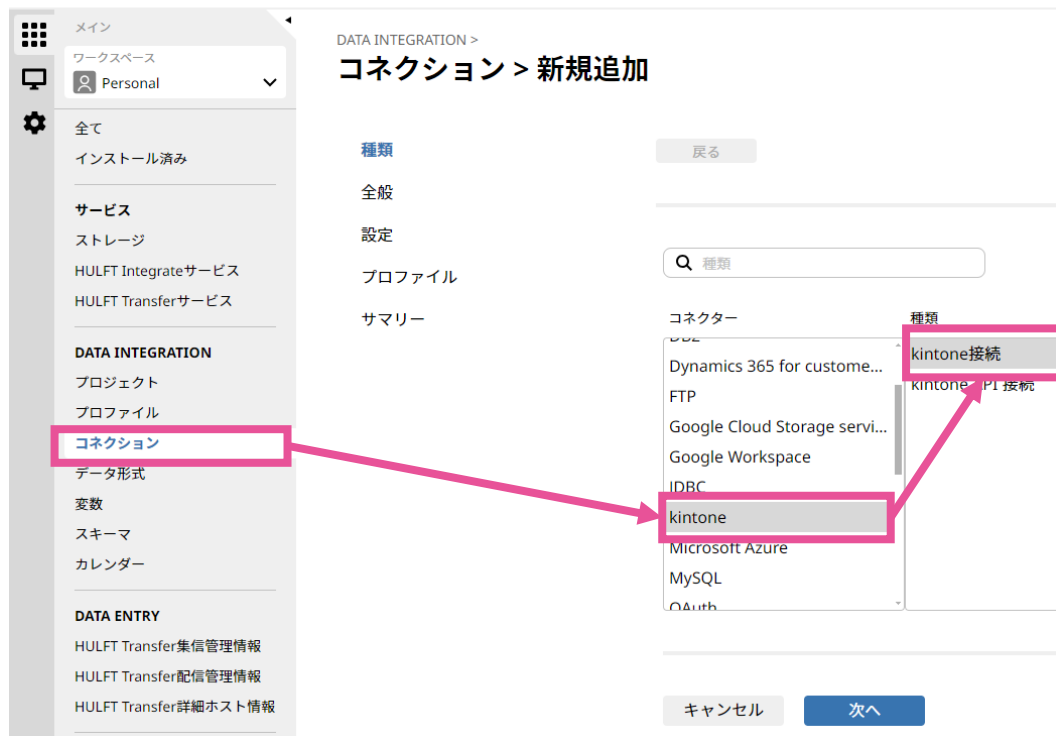
※「アプリ管理」の一覧と同じ値です。

項目	備考
サブドメイン名	URLから取得
アプリID	「アプリ管理」の一覧、またはURLから取得
ログインID	権限を付与したユーザーのログインID(メールアドレス)
ログインパスワード	上記ユーザーのログインパスワード
(Basic認証)ユーザー名	ご利用のcybozu.comでbasic認証を利用している場合、 認証ユーザー名を利用します
(Basic認証)パスワード	ご利用のcybozu.comでbasic認証を利用している場合、 認証ユーザー名のパスワードを利用します

【kintone接続】HULFT Square側の設定（コネクションの作成）

HULFT Squareでkintoneに接続するコネクションを作成します。

HULFT SQUARE



DATA INTEGRATION > コネクション > 新規追加

種類

全般

設定

プロファイル

サマリー

名前 *

ワークスペース

説明

キャンセル 次へ

コネクションから新規作成を選び、
コネクター一覧から「kintone接続」を選択します。

「名前」、「説明」に任意の値を入力し、
「ワークスペース」を選択します。

【kintone接続】HULFT Square側の設定（コネクションの作成）

HULFT INTEGRATE >

コネクション > 新規追加

種類

全般

設定

プロファイル

サマリー

戻る

① 以下のテキストフィールドでは、変数の名前を%{}で囲うことで使用することができます。例: %{HOST_NAME}。

サブドメイン名 *	
ドメイン名	.cybozu.com
ドメイン名を直接入力する	☐
アプリID *	
ログインID *	
ログインパスワード *	

接続テスト

▶ Basic認証

▶ ゲストスペース



DATA INTEGRATION >

コネクション > 新規追加

種類

全般

設定

プロファイル

サマリー

戻る

① プロファイルとは、Integrateサービスを実行する環境ごとにスクリプトから参照される接続先などの設定を分離するための機能です。コネクション、変数、カレンダーの情報をプロファイルに紐づけることで、それらの設定値をスクリプトを編集することなく切り替えることができます。

プロファイル * x

キャンセル

次へ

kintone側で確認済の値を指定します。

確認が済んでいない場合はP.8～P.10 の手順で取得します。

「プロファイル」を選択します。

次の画面に進むと「サマリー」が表示されます
設定に誤りが無ければ「完了」を押下します。

コネクションの作成が完了しました。

【kintone接続】スクリプト作成 概要

kintoneのアプリに登録されているすべてのレコードを取得するスクリプトの作成例です。
HULFT Squareでkintoneからデータを読み取れることを確認します。

作成するスクリプト（完成図）



kintone

フォーム構成（kintone アプリ）

商品名	単価

レコード（kintone アプリ）

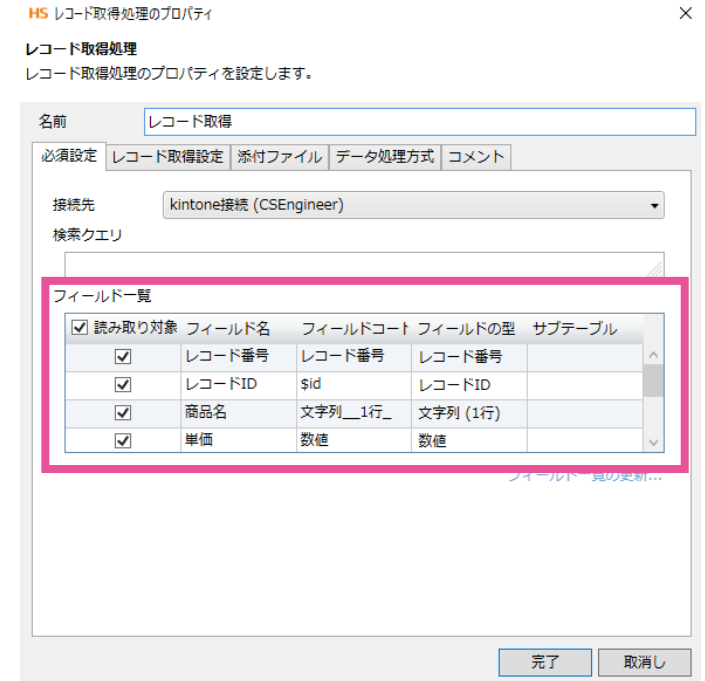
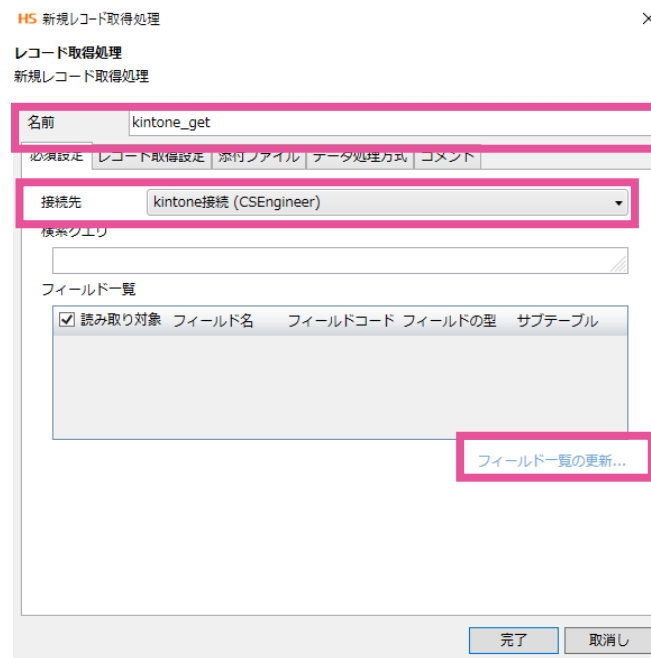
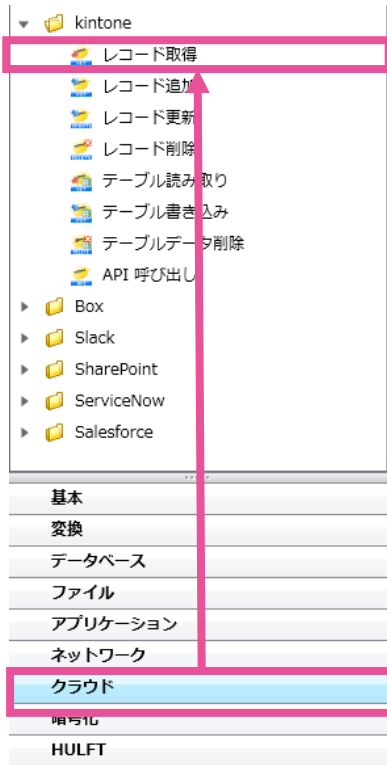
	レコード番号	商品名	単価	
1	2	bbbb	222	
2	1	aaa	111	

HULFT Square

出力ファイル

```
kintone.xml
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<root>
  <record>
    <value><![CDATA[2]]></value>
    <value><![CDATA[2]]></value>
    <value><![CDATA[bbbb]]></value>
    <value><![CDATA[222]]></value>
  </record>
  <record>
    <value><![CDATA[1]]></value>
    <value><![CDATA[1]]></value>
    <value><![CDATA[aaa]]></value>
    <value><![CDATA[111]]></value>
  </record>
</root>
```

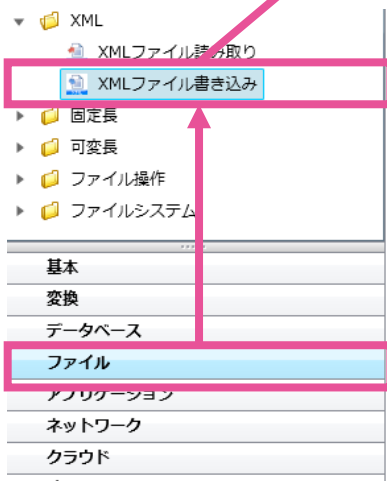
【kintone接続】 スクリプト作成



名前を入力し[接続先]にコネクションを指定し、[フィールド一覧の更新]を選択します。

フィールド一覧に、kintone アプリのフィールドが反映されます。

【kintone接続】スクリプト作成

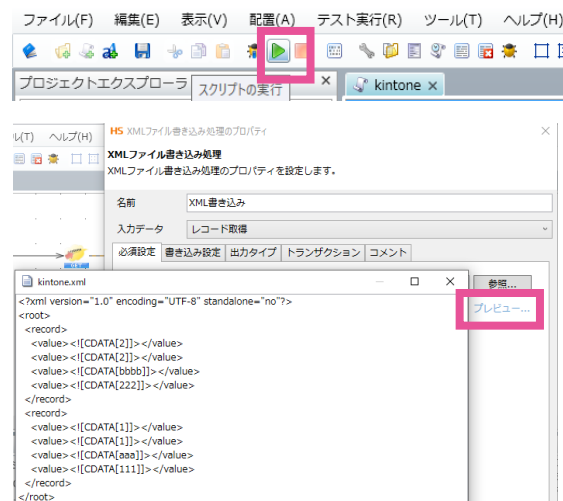


ツールパレットにある「XMLファイル書き込み」処理を配置します。

「レコード取得」処理のアイコンを「XMLファイル書き込み」処理にドラッグ&ドロップすると、フローを選択する画面が表示されます。

「プロセスフローとデータフローを引く」を選択します。
「マッピングを追加する」にチェックは入れません。

左図のようにStartからEndまでプロセスフロー（黒実線）が引かれていることを確認し、スクリプトを実行します。



正常終了後「XMLファイル書き込み」処理を開き[プレビュー]を選択し、ファイルにkintoneアプリのレコードが書き込まれていることを確認します。

2. kintone API接続

API呼び出しの接続設定

【kintone API接続】 kintoneへの接続

kintone API接続では、kintone側で公開されているアプリに接続する接続設定を作成しアプリからレコードに紐づいているコメントを取得する手順を記載しています。

作成するスクリプト（完成図）



【kintone API接続】 kintoneへの接続概要

HULFT Square コネクタ for kintoneで利用する接続設定を作成します。
kintone側で接続を許可した後にHULFT Squareで設定をおこないます。

1. kintone側

- アプリの公開

※kintone接続と同じため割愛します。kintone接続をご参照ください。

2. HULFT Square側

- コネクションの作成
- スクリプトの作成

【kintone API接続】HULFT Square側の設定（コネクションの作成）

HULFT Squareでkintone APIに接続するコネクションを作成します。

The image shows a two-step process for creating a kintone API connection in HULFT Square. On the left, the 'HULFT SQUARE' interface is shown with the 'コネクション' (Connections) menu item highlighted in the left sidebar. The main area displays 'コネクション > 新規追加' (Connections > New Addition). A list of connectors is shown, with 'kintone' selected. A red box highlights 'kintone API 接続' in the connector list. A blue arrow points to the right, where the 'HULFT INTEGRATE > コネクション > 新規追加' (HULFT INTEGRATE > Connections > New Addition) form is shown. The form has fields for '名前*' (Name*), 'ワークスペース' (Workspace), and '説明' (Description). The '名前*' field contains 'kintone API 接続' and the 'ワークスペース' dropdown is set to 'Personal'. Both fields are highlighted with red boxes. The '説明' field is empty. At the bottom, there are 'キャンセル' (Cancel) and '次へ' (Next) buttons.

コネクションから新規作成を選び、
コネクター一覧から「kintone API接続」を選択します。

「名前」、「説明」に任意の値を入力し、
「ワークスペース」を選択します。

【kintone API接続】HULFT Square側の設定（コネクションの作成）

HULFT INTEGRATE >

コネクション > 新規追加

種類

戻る

全般

設定

プロファイル

サマリー

① 以下のテキストフィールドでは、変数の名前を%{}で囲うことで使用することができます。例: %(HOST_NAME)。

サブドメイン名 *

ドメイン名

.cybozu.com

ドメイン名を直接入力する

☐

ログインID *

ログインパスワード *

接続テスト

▶ Basic認証



DATA INTEGRATION >

コネクション > 新規追加

種類

戻る

全般

設定

プロファイル

サマリー

① プロファイルとは、Integrateサービスを実行する環境ごとにスクリプトから参照される接続先などの設定を分離するための機能です。コネクション、変数、カレンダーの情報をプロファイルに紐づけることで、それらの設定値をスクリプトを編集することなく切り替えることができます。

プロファイル *

Default x

x | v

キャンセル

次へ

「プロファイル」を選択します。

kintone側で確認済の値を指定します。

確認が済んでいない場合はP.8～P.10の手順で取得します。

次の画面に進むと「サマリー」が表示されます
設定に誤りが無ければ「完了」を押下します。
コネクションの作成が完了しました。

【kintone API接続】スクリプト作成 概要

kintoneのアプリに登録されているレコードのコメントを取得するスクリプトの作成例です。
HULFT Squareでkintoneからデータを読み取れることが確認できます。

作成するスクリプト（完成図）



kintone

フォーム構成（kintone アプリ）

商品名	単価

レコード（kintone アプリ）

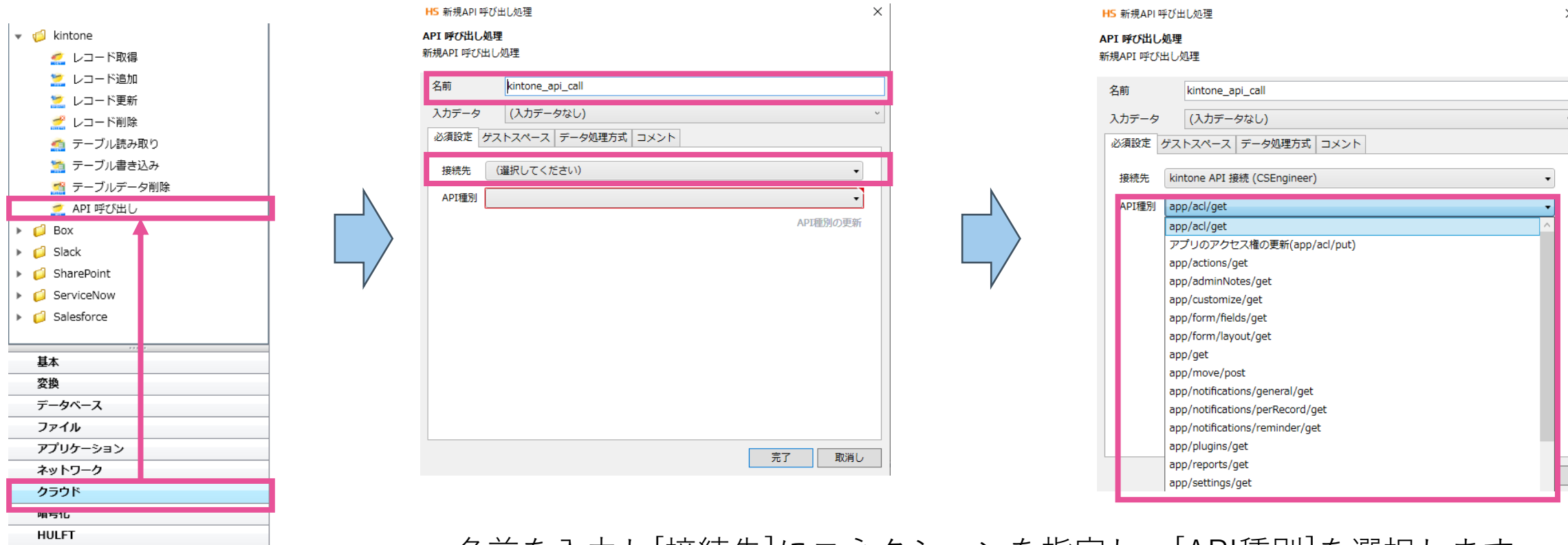
	レコード番号	商品名	単価	
1	2	bbbb	222	 
2	1	aaa	111	 

HULFT Square

出力ファイル

```
kintone_api.xml
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="no"?>
<root>
  <comments>
    <element>
      <id><![CDATA[1]]></id>
      <text><![CDATA[これはコメントです]]></text>
      <createdAt><![CDATA[2024-06-24T00:46:34Z]]></createdAt>
      <creator>
        <code><![CDATA[REDACTED@REDACTED.co.jp]]></code>
        <name><![CDATA[REDACTED]]></name>
      </creator>
      <mentions/>
    </element>
  </comments>
  <older><![CDATA[false]]></older>
  <newer><![CDATA[false]]></newer>
</root>
```

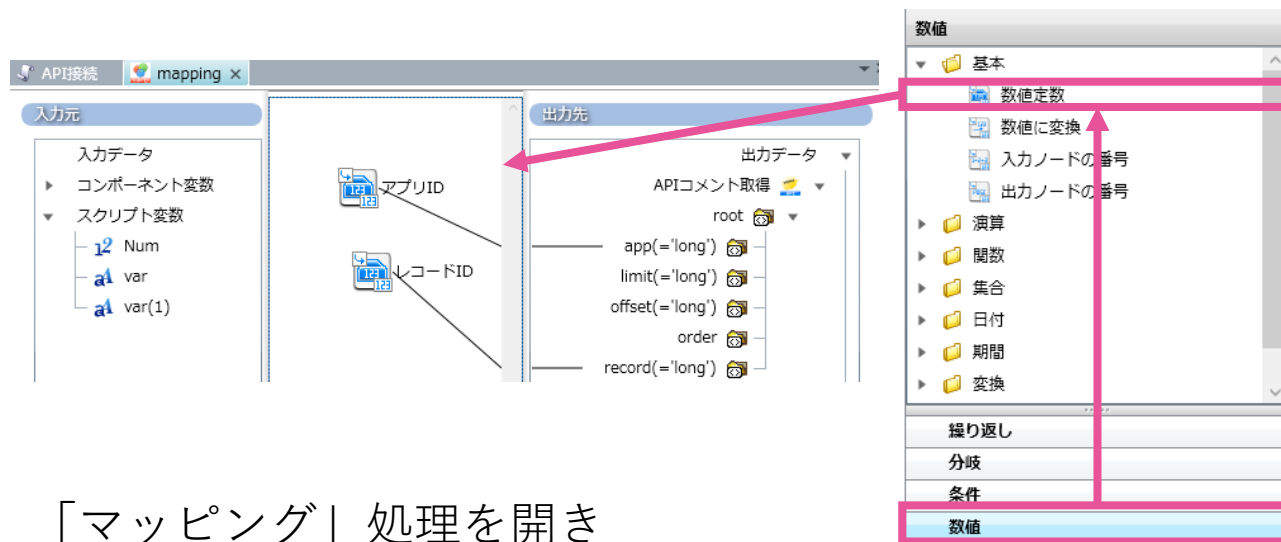
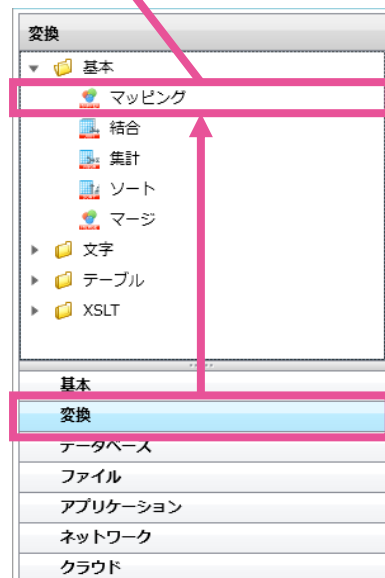
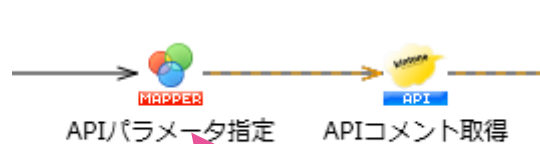
【kintone API接続】 スクリプト作成



名前を入力し[接続先]にコネクションを指定し、[API種別]を選択します。
本例では「record/comments/get」を選択します。

ツールパレットにある
「API呼び出し」処理を
ドラッグ&ドロップで配置します。

【kintone API接続】 スクリプト作成



「マッピング」処理を開き
「数値定数」ロジックを図のように配置します。

出力先側にある「app」にアプリIDの値、「record」にコメントを取得する
レコード番号の値を紐つけます。

ツールパレットから「マッピング」処理を配置します。

「マッピング」処理のアイコンを「API呼び出し」処理に
ドラッグ&ドロップし「プロセスフローとデータフローを引く」を選択します。
「マッピングを追加する」にチェックは入れません。

【kintone API接続】 スクリプト作成

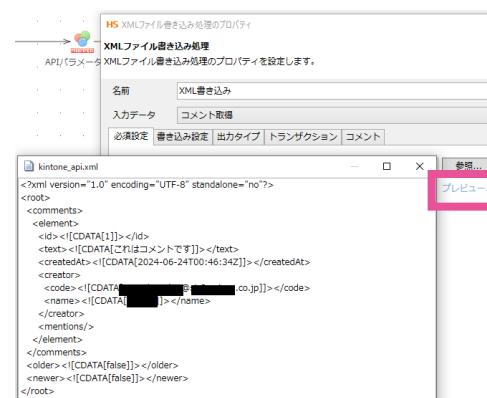
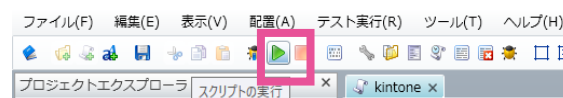
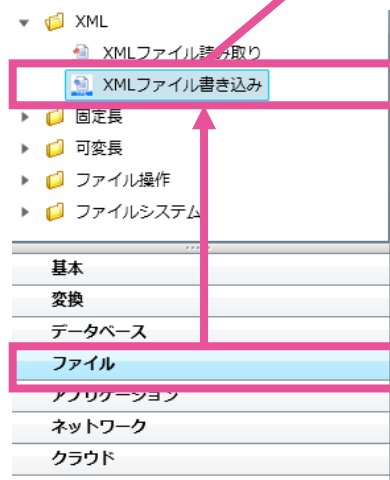


ツールパレットにある「XMLファイル書き込み」処理を配置します。

「レコード取得」処理のアイコンを「XMLファイル書き込み」処理にドラッグ&ドロップすると、フローを選択する画面が表示されます。

「プロセスフローとデータフローを引く」を選択します。
「マッピングを追加する」にチェックは入れません。

左図のようにStartからEndまでプロセスフロー（黒実線）が引かれていることを確認し、スクリプトを実行します。



正常終了後「XMLファイル書き込み」処理を開き[プレビュー]を選択し、ファイルにkintoneアプリのレコードコメントが書き込まれていることを確認します。

版数	改版内容
20240731	初版リリース



< 免責条項 >

本資料の内容は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されているものであり、今後予告なしに変更されることがあります。よって本資料使用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

また、本資料の無断での複製、転送等を行わないようお願いいたします。

なお、本資料に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。